

Google Earth Education レッスンプラン：

こえに だして よもう(国語科)

指導者：
藤原直樹

対象学年：
小学 1 年生

単元名・教材名：
こえに だして よもう(10 時間扱い)
「くじらぐも」(光村図書)

使用ツールや環境：
Google Earth、ノート PC、プロジェクター、
インターネット環境

単元について：

1. 指導事項

- a. 文学的な文章の解釈に関する指導事項
 - i. 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。
- b. 自分の考えの形成及び交流に関する指導事項
 - i. 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。

2. 単元目標

- a. 登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、物語を楽しむ。

3. 評価規準

- a. 体操の時間や雲の上の様子などについて、想像を広げて読む。
- b. 語や文としてのまとまりや内容、呼びかける声の大きさなどを考えて、声に出して読む。

Google Earth 活用の意図と実際の児童の姿：

本単元では、教材「くじらぐも」を通して、物語の世界に心と体を解放させ、存分に作品の中で遊ぶことで、文章と挿絵を手がかりにして読む力を身に付けさせたい。

また、文章と挿絵から想像を膨らませて、作品に深く入り込み、楽しむことで、声に出して読む力を身に付けさせたい。

読み取った際の想像をもつことと、声に出して読むことは、常に行きつ戻りつの関係であり、この行き来を通して作品の読みを深めていくことが読みの力を高めることになるのである。

そこで本実践では、作品の世界に深く深く入り込み、情景をつかみ、作中人物になり切って、場面の様子をより豊かに想像したり、表現したり、味わったりするための手立てとして Google Earth を活用した。

具体的には、作品の中で登場するくじらぐもから運動場にいる児童たちがどのように見えているのかをつかむことで、くじらぐもの気持ちを深く想像したり、児童たちがくじらぐもに飛び乗って自分たちのまちを眺めたり、どこまでも続く空を海など向かって飛び回ったりすることで、作中人物の気持ちを気持ちを深く想像したりした。

このように、作品の場面をより深くつかみ、作中人物の気持ちを深く読み取ることで、会話文の読み方を工夫し、声に出して読む力を高めることを意図して Google Earth を用いた。

くじらぐもの視点をもつために、Google Earth 上で自分たちが今いる場所からズームアウトし、自分たちの校庭を高い位置から眺めたり、地上から高い位置に移動したりした。このことで、空から眺めた自分たちがいかに遠い存在かということをつかみ、くじらぐもの会話文を読むときには、遠くの相手に声が届くように大きく、そして声を遠くに届けるようにゆっくりと読んでいた。



自分の学校から上空へ飛び上がる

また、作中人物の児童たちがくじらぐものに飛び乗ったり、空を飛び回る場面では、光を閉ざした体育館の壁面に Google Earth を投影し、地上から空へ「天までとどけ、一、二、三。」の掛け声と共に児童みんなで手を繋いで飛び上がる疑似体験をした。このときに味わった自分自身の歓喜を作中人物の児童に重ね合わせることで、児童らは作中人物の心情をより深く読み、音読するときには元気いっぱい、歓喜に満ちた声で読んでいた。

その後、自分たちのまちの上空を見回したり、遠足で訪れた公園や自分たちが暮らす横浜の名所「みなとみらい」や「日産スタジアム」、学校から遠くに見える富士山までの経路を Google Earth 上で移動することで、教師と児童が一緒に作品の中に入り込み、空を飛び回った。このようにくじらぐもと一緒にあちこちへ出かけるという体験をし、くじらぐもとの出会いを存分に楽しむことで、作中人物の児童がくじらぐもとの別れる場面での会話文では、名残惜しそうに、そしてくじらぐもへの感謝の気持ちを込めた読み方をしていた。



横浜のまち「みなとみらい」を眺める



横浜のまち「日産スタジアム」を眺める



自分の学校の上空から眺める富士山

通常は作品の本文と挿絵を手がかりにして読む力を育てる単元であるが、本実践ではこれに加えて、Google Earthを用いて、地上と空との距離感をつかんだり、作中人物の視点をもったり、空を飛び回る疑似体験を得たりすることで、作品の読みが一層深まったといえるものになった。

LESSONプラン制作：D-project、原稿作成：藤原直樹